

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
基礎医学実習	1年次	必修	実習	1単位（45時間）	山口 聖子
授 業 概 要					
<p>化学実験を通して、臨床検査技師が検査に使用する器具の取扱いや基本的な検査方法を学ぶ。 解剖生理学実験においては、人体模型の観察や組み立て、ヒトの正常組織標本の顕微鏡観察、ヒトに近いとされるブタの臓器観察を通して、人体の機能と構造の基本的事項を学ぶ。 これらの実習を通して、検査手技の基礎及び人体に関する基礎知識を修得し、臨床検査に対する理解を深める。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・検査に使用する器具及び機器を適切に取り扱うことができる。 ・測定法を理解し、実験により検査データを導くことができる。 ・臓器観察により、臓器の特徴を理解することができる。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1-3	化学実験 1：実験器具、実験機器の取扱い方				山口 聖子
4-12	化学実験 2：酵素実験				〃
13-16	解剖生理学実験 1：ブタ臓器を用いた諸臓器の詳細な観察およびスケッチ				竹内 法子
17-19	解剖生理学実験 2：血圧・脈拍の測定 感覚の生理学(1)盲斑の検出				〃 山口 聖子
20-21	解剖生理学実験 3：感覚の生理学(2)－1 皮膚の空間閾値の検査 ：感覚の生理学(2)－2 触-圧点と痛点の分布 ：感覚の生理学(3)味覚地図の作製・味覚閾値の検査				竹内 法子 〃 山口 聖子
22-23	解剖生理学実験 4：感覚の生理学(4)－1 棒反応 ：感覚の生理学(4)－2 小脳機能の観察				竹内 法子 〃
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習は十分な理解のもと実施することが必要となるので、配付資料や教科書をよく読み、操作方法などを予習しておくこと。 ・各実習内容はレポートによって報告してもらう。 ・レポートの記載方法は事前に配付する資料に従うこと。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習修了試験（60％）及びレポート（40％）により評価する。 ・レポートは評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。 ・再試験ではレポートの再評価はしない。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕					
臨床検査学基礎実習	鈴木優治、信岡学			医歯薬出版株式会社	
標準臨床検査学 基礎医学 人体の構造と機能	岩谷良則			医学書院	
人体の構造と機能 第3版	佐藤昭夫、佐伯由香、原田玲子			医歯薬出版株式会社	
ぜんぶわかる人体解剖図	坂井建雄、橋本尚詞			成美堂出版	
配付資料					